

単収 200kg 以上、2 等級以上を目指して 排水対策の徹底で大豆に適したほ場づくり！

- 大豆作に適したほ場選定とブロックローテーションの実践
- 排水溝（周囲明渠＋補助暗渠）施工による地表及び地下水の早期排除

大豆の高品質かつ安定した収量確保には、ほ場選定と排水対策（湿害回避）の徹底が重要となる。

また、排水対策の徹底は苗立率向上やその後の生育促進効果を期待でき、葉が早期にほ場を覆うことによる雑草発生の抑制効果もあわせて期待できる。他には夏期高温時の渇水対策でも周囲明渠等の施工により速やかにほ場全体に水が行き渡る。



1 圃場の選定

（1）排水が良い・地力の高いほ場を選ぶ

大豆は8月中旬以降、根粒菌の活性が低下し、地力窒素を多く必要とすることから、地力の高いほ場を選定する。

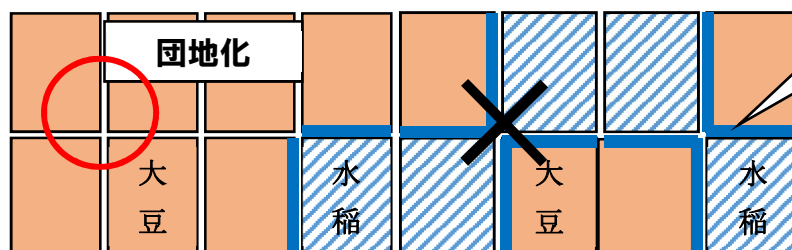
（2）ほ場を団地化

ほ場を団地化することで周囲からの水の侵入を防止する。（図1）

（3）長期連作の回避

数年サイクルで団地を動かし（水田に戻し）、連作を極力、回避する。

※3年以上の連作により、小粒化や病害虫・雑草が多発することで収量・品質が低下する。



隣接水田から
多くの水が侵入 ⚠

図1 団地化のイメージ

2 排水対策（排水溝施工）

【排水対策のポイント】～明渠から排水口まですべて繋げる～

（1）地表水の排水 目標：降雨後1日以内で排除

① 明渠の施工

- ・迅速な排水を促すため、深さは30～40cm程度の周囲明渠は必ず施工し、排水口に確実に接続する。
- ・排水不良のほ場では、さらにほ場内明渠を5～10m間隔で施工する。

② ほ場内排水溝の設置

- ・畝間を確実に周囲明渠に連結する。

（2）地下水の排水 目標：地下水位40cm程度

① 本暗渠の機能維持

- ・暗渠の落水口や水閘、止水弁や排水の状況を確認する。
- ・暗渠管が泥などで詰まり排水不良の場合は、除去する。

② 補助暗渠の施工

- ・排水不良圃場では、弾丸暗渠を2～3m間隔で本暗渠と交差させる（特に粘土質の圃場に有効）。深さは周囲明渠と同程度とし接続させる。
- ・透水性・通気性を高めるため、サブソイラーによる心土破碎（全ての土壌に適応）を4m程度の間隔で実施する。
- ・施工効果を高めるため、できるだけ土壌が乾いているときに実施する。

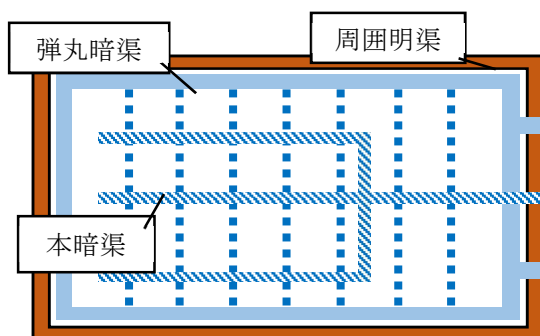
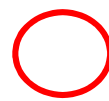


図2 排水溝施工のイメージ



図3 畝間を周囲明渠に連結

排水口の様子



排水口に繋がっている



排水口に繋がっていない